

## 平成23年度 第4回 CCC 社会学グループ運営委員会 議事概要

I. 日時：平成23年10月28日（金）午後2時から午後4時まで

II. 場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：奥村委員、土屋委員、津田委員

（事務局）井端事務局長、森下主幹、松本職員

### IV. 議事概要

#### 1. 検討内容

「学士力の実現に求められる授業改善モデル」に対するサイバーFD 研究員からのコメントに関する検討が行われた。

##### （1）授業改善モデル（中間まとめ案1）に対するコメントの検討

- ・ 「現場での調査」が調査公害を生み出すのではないか

調査事例を「震災から見えるもの」から「パブリック／プライベート」へと変更し、調査公害に対する懸念を抑える。

調査の具体例を明示する。電車内での音楽プレイヤー・携帯電話の利用、福祉サービスの提供に関する役割分担など。

一次情報の入手は、必ずしも現地でのインタビューを通じて行なう必要はなく、身近な体験談などの収集によっても可能である。

- ・ 情報収集の中身、仮説と理論との関係、調査対象のサンプリング法を教える必要性があるのではないか

仮説と理論との関係、データのサンプリングの問題、既存データの二次分析等については、到達目標4に関わる問題であり、より本格的な調査にとりかかる際に問題となる。

##### （2）授業改善モデル(中間まとめ案2)に対するコメントの検討

- ・ 社会調査実習や卒業論文との関連付けが必要ではないか

調査関連科目との連携を強調したほうがよい。

卒業論文が必修ではない大学もある。

- ・ 他の学問分野だけではなく社会学の他の領域との関連づけが必要ではないか

社会学内部での細分化を問題視しているということも踏まえて、「若年失業者問題」に関して社会学の他領域（家族、ジェンダー、メディア等）との関連付けを明示。それら関連領域の学びを教員作成の点検シートに基づき、学習ポートフォリオで確認できるようにする。

- ・ 自律的な行動基準とは

「授業のねらい」における「自律的な行動基準を身に付けさせることを目指す」という表現に関する検討。将来的な授業モデルであることを踏まえて、提言の中間発表や現場体験の義務付けなども考える。

調査に関して繰り返しフィードバックを受けることで、自ら反省し、主体的に社会に参加できるようにすることを目指す。

#### V. 次回の開催日程

日時：平成 23 年 12 月 2 日 午後 2 時から 4 時まで

場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室